

## お仏壇や墓地に供える

### お花って何でも良いの？

#### 徹底解説

今月も、『かんちゃん住職』のユーチューブチャンネルからピックアップして、皆さまにシェアさせて頂きます。色んな場面で「お供えるお花」について、色々と学んでいこうと思います。一口に「お花」といっても、「供花(きょうか)・仏花(ぶつか)・生花(せいけい)・枕花(まくらばな)」など様々な呼び名があります。じゃあ、供花とは何か？ 仏花や生花とは、何が違うのでしょうか？

お花は、お線香、ロウソクの燈と並んで、お供えの基本とされています。生花というのは造花ではなく、読んで字の如く「ナマ花」です。供花は、お供えする花のことで、お葬式の時に故人に手向けのお花。故人に「供える花」と書いて「供花」と言います。読み方とすれば「きょうか」とか、「くげ」という言い方をする場合もあります。葬儀会場で祭壇に飾って頂く、名前を書いた札を立てたお花のことです。よく生花と供花はどう違うんですか？ 調べて聞かれるんですが、これは基本的に、生花も供花も同じものという認識で宜しいかと思えます。業界用語的には「籠花(かごばな)」と言われているものが生花であり供花の事です。お通夜や、お葬式で祭壇の横に喪主であったり、親戚一同であったりとかの名札を立てて御霊前にお供えするお花のことで

す。生花・供花・籠花は基本的に同じだと思っ頂いて間違いありません。あと他に、枕花(まくらばな)というものもありまして、通夜や葬儀の前には、ご遺体を、ご自宅等で安置しているわけですが、その時に枕元にお飾りするお供えする、そのお花のことを「枕花」と呼んでいます。納棺まで、故人の枕元にお供えすることから「枕花」と呼ばれるようになりました。あと、花輪(はなわ)や仏花(ぶつか)というのも聞いたことがあると思います。仏花というのは、お仏壇やお墓にお供えるお花のことを言います。また、通夜葬儀では、供花や生花と言いますので、その違いを覚えておいて下さいね。そしてよく間違われるのが花輪です。「花の輪」と書くように、「花輪」と呼ぶように、お花を丸い形にしたものですね。これも供花・生花・枕花と同じく、故人の死を悼み、お悔やみの心を示すためのお供え物の一つです。果物やお線香など、通夜と葬儀に供えられるものと意味合いは同じです。

#### ★【供花の意味や由来について】

供花・生花・枕花・そして花輪。お花をお供えするのは、故人を偲び、御遺族のお気持ちを悼む心から、お花をお供えして、安らかな旅立ちをお祈りしながら捧げたい、そんな真摯な気持ちが込められているという事です。

「供える物」と書いて、「お供物」というわけですけど、果物の盛り籠や、缶詰の籠など、一口に「お供物」と言っても色んな「お供物」があります。「お供物」は、心からの弔意を表すために贈る物ですから、お気持ちがあれば、ど

のような物をお供えしても良いとは思いますが、そうは言っても基本的なルール慣習もごさいます。「供花」には式場を飾るという意味合いもありますので、統一感が必要になります。どのような種類なら問題ないか？ 喪主様や葬儀社に確認しつつ、お花の種類を選んでいきましようね。

また、お仏壇にお供えするお花「仏花」について言えば、造花ではなくて、できるだけ生花(なまばな)を、お供えする様にして頂きたいと思います。その理由としては、生花は生きています。で、いずれ枯れ落ちていきます。お花が枯れるまでの変化が、人の一生を迎える様子を表している。その姿が、仏教で言うところの「無常」を表すとか、自分の身を削って、仏様の美しい世界、慈悲の心を表現してくれる、という解釈から、造花ではなくて原則、生花をお供えするようにオススメしております。まあ、基本は生花を飾る方が良いと思うんですが、夏なんかだと、気温が高くて、すぐに枯れて傷んでしまう事もあります。しよっちゅう交換するのも大変だったりすることもあります。お供えするお花は、生花であることに越したことはないんですが、こういった基本の作法を知った上で、造花にされるのは、悪いことではないと思います。造花やブリザーブドフラワーはあくまで代用品と思っていただいて、大事な法事の時なんかには、キチンと生花をお供え頂ければ良いのではないかと思います。

#### ★【供えても良いお花、ダメなお花の種類と、その理由について】

お墓やお仏壇にお供えするお花のタブーも気にしない方が増えてきましたけど、やっぱりダメな種類というのがあります。スーパーや花屋さんに行けば、それこそ百花繚乱、様々な色のお花があつて目移りしますが、まずお花の色です。お墓参りやお仏壇にお供えするお花の色は、白・紫・黄色の3色というのが基本ルールとしてあります。ですが、実際にお墓やお仏壇で見かけるお花は、白・黄・紫に加えて赤やピンクの色のお花も混ざつた5色をメインにした、明るい色使いの仏花が目立ちます。まあ基本を知った上で、あまり神経質にならなくても良いのかなあと思っています。ただし、四十九日が終わっていない時にお供えするお花は、白色をメインにしたお花をお供えしてくださいね。また、色よりも神経質になるのが、お花の種類です。こういうお花は使っちゃいけないよというルールがあります。

お仏壇やお墓参りでは、次の5種類のお花は避けた方がよいと言われます

★トゲのあるお花(バラやアザミなど)  
★毒素のあるお花(シヤクナゲや彼岸花など)：彼岸花というのは毒性があるので、これも御仏壇のお供えには適していないということになってしまいます。彼岸花と言えば、名前からしていかにもお供えに合いそうなのですがいけないんですね。

★香りの強いお花（ユリやカサブランカなど）：香りに加え、ユリは花粉が飛び散ることもあって不向きといわれることも。また、傷みやすいお花でもあります。

★つる性の花（朝顔・ジャスマンなど）：ツル状の植物は水上がりりの悪いものが多く、枯れやすいです。また、からみついため、なかなか昇天できないイメージと結びつき、適していないとされます。

★臭い匂いのするお花：臭いと感ずるのは、人の感性によるところもあります。また、独特の匂いが強いお花は避けた方が良いでしょう。

◆ついでに、花粉が落ちやすい花：花粉などが落ちやすい花は、墓石のシミになるというのが選んではいけない理由のようです。あと、椿やサザンカなどは、花の根元から、ポトンと落ちるので、縁起の悪いイメージがあるのではお供えにも敵さないとされていますね。

こういふ風習が出来た大本の理由として考えられるのが、『そしつじからきよう（蘇悉地羯羅經）』という、大日三部經の1つに数えられる密教を代表する經典がありましてその中に、「優れた成就のための作法についての經」ということで、要するに仏事をやる時の教えが書かれたお経です。

この中に「トゲのある花、黒い花、異臭のする花は、捧げてはいけない」と教えられています。これがこの話の大本になっているんだと思います。こういうタブー視されているお花以外であればスーパースーパーに並んでいる『仏花』として売られている物以外

のお花でも、例えば、ご自宅のお庭に咲いたお花を用いても良いし、お好きなお花でも良いし、何か季節感のあるお花をチョイスしながら、お供えをして頂くのが宜しいかと思えます。

お仏壇というのは本堂の縮小版ですよ。本堂は仏様の世界を表したお堂です。トゲのあるお花や毒性のあるお花をお供えしない理由として、仏様の世界には人を傷付けるものは存在しないからとも言えます。仏様の国には人を傷付ける様な尖ったトゲのようなものや、毒となるものが存在しないでしょうから、そういったお花はお供えしないという風に考えて頂ければ宜しいかと思えます。

「仏花」というのは、そのお花の儂く朽ちる姿を垣間見た、お参りする私たちが、命の尊さを知って、感謝する気持ちに気づく為、お供えするという意味合いもございませう。まさに仏様の慈悲の心を知るために供えるのが「仏花」。お仏壇やお墓に供えるお花です。その意味合いから考えると、毒気やトゲがあつたり、香りがきついお花とか、支えが無いと立てないつる性のお花なんかは、お供えするお花としては、相応しくないという事になる

### ★【まとめ】

「供花・生花・枕花に花輪」をお供えするのは、あくまで故人の供養と、残された御遺族の気持ちに寄り添うために贈るものです。気をつけなければいけないのは、喪主の供える供花よりも大きなサイズの供花を供えないように

えて頂きたいと思えます。ひときわ目立つような大きな物を贈ったり、鮮やかな色彩の花を取り混ぜたりすることはその場の雰囲気や壊し、遺族にご迷惑をお掛けしてしまいます。また高価な物を贈るのも遺族に負担をかける事になる。場違いにならないよう気配りも大切ですよ。そういうのは、お寺のご住職さんや、葬儀屋さん確認されると、御遺族のお気持ちや、どのくらいのお花が良いかも教えてくれると思えます。

どうか、目立たぬように、それでいて心のかもった贈り方を心がけて頂きたいと思えます。

また、お仏壇というのは、お亡くなりになった故人や、仏様の心に、私が出会わせて頂く場所です。だからこそ、お供え物で立派に祀られたお仏壇を拜んだ時に、私達の心が浄められる思いになる。仏様の心に照らされて、私達の心が浄化される場所でもあります。ロウソクというのは、仏様の智慧を表しており、お花というのは仏様の慈悲を表しているものです。そしてお供えしている綺麗なお花を見て、嫌な気持ちになる人はいないと思えます。綺麗なお花を見ると、私達の心は安らいでいくと思えます。仏様の教えに触れたときに、私達の心は安らぎます。その仏様の世界をあらわしたお仏壇や祭壇には、仏様の象徴としての綺麗なお花を供えて頂ければと思えます。とすれば、お花が枯れている姿で忘れ去られているお仏壇ではいけませんし、いつも新鮮なお花をお供え頂けたらと思えます。造花ではなくて、生花を使つて頂きたいと思えます。これはロウソク

もそうなんです。最近LEDライトで綺麗な光を放つロウソクなんかも販売されていますが、極力、本物のロウソクをお使い頂きたいなと思つていませう。まあ、お年寄りの一人暮らしで火は危ないということもありますが、怠け心で、造花で良いや、みたいな気持ちでお供えするのだけは遠慮くださいね。

ということ、「お供えするお花」についての解説をさせて頂いた頂きました。基本的な知識をご理解頂いて、まずは、ご自宅のお仏壇にお供えしている仏花を見直してみても下さいね。また「今さら聞けない仏事に関する作法」などをユーチューブチャンネルの【かんちゃん住職】で紹介しています。

【かんちゃん住職】のチャンネル登録と、グッドボタンもお願いします。また皆さまの今日が豊かな一日になりますよう、心より祈念いたしております。

合掌 副住職 谷川寛敬

